

令和6年度 学力向上指導改善プラン

高平小学校長 中島 剛

学校教育目標		「人とつながりよりいよ自己をめざす」児童の育成 ～「やさしさ」「ふるさと」高平～		4月		2～3月		
推進主体		管理職と学校教育改革推進委員会		学力向上に向けての重点的な目標		年度末評価		
学力に関する前年度の状況・経年の課題等				(指標となる数値等)		(成果目標達成のための具体的な手立て等)		
						(今年度の成果と来年度に向けた課題等)		
						評価		
学力的状況	全国学力・学習状況調査結果の状況(国語、算数・数学に関する質問調査の結果も含む)	国語	<p>○情報の正しい方に関する事項「原因と結果など情報との関係について理解する」の設問では、全国平均を8ポイント上回り良好であり、情報整理の力が高まっている</p> <p>○言語活動を位置づけた授業を進めることで、昨年度より漢字の正答率が上がった</p> <p>○「書くこと」では、全国平均を1.9ポイント上回り、昨年より伸びが見られた</p> <p>○「読むこと」では、「文意に詳しく理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること」「話すこと」では、「目的や意図に応じ、話の内容を伝え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること」に課題が見られた。</p>	<p>○主体的・対話的で深い学びの観点からの授業改善(児童が見通しをもって学習に取り組み、児童が自分の考えを育て他者との対話思考を広げ、児童が問題を解決する授業を目指す)</p> <p>国語 目的を明確にして情報を関係付けながら内容を把握し、自分の考えを工夫した書き方でまとめる活動を更に充実させていく。</p>	<p>○全国学力・学習状況調査における平均正答率が全国平均を上回る。</p> <p>○授業における学びの姿勢や態度を表す項目が向上する。</p>	<p>・教科書の文章を根拠にした発言を促し、内容の理解を進める。</p> <p>・自分の考えを積極的に表現するために必要なスキルを習得を進める。</p> <p>・問題文の意味を的確にとらえるための具体物や半具体物を用いて授業を行う。</p> <p>・問題解決型の学習の取り組み、ペア学習、グループ学習を位置づける。</p> <p>・特別活動の充実を図り、目的や意図に応じて話す機会を設定して、意欲的な学びの姿勢を高めていく。</p> <p>・同室複数指導、少人数授業の充実を図る。</p>		
		算数	<p>○図形」では、正答率が28.8%(全国20.8%)で7.8ポイント上回り、面積の定義から面積の大小を理論的に判断できる力がついている</p> <p>○「数と計算」では正答率が58.7%(全国72.4%)13.3ポイント上回り、たし算とかけ算の混合算の技能の定着が見られる</p> <p>◆除法の計算の仕方についての理解、式や言葉を用いて自分なりの考えを論理的に示す力、百分率で表された割合について、割合の基本的な知識に課題が見られる。</p>	<p>○単元ごとや学期末のテストにおいては、概ね満足できる状況であった。</p> <p>◆学習者における計算や漢字等の基礎学力の定着に今後取り組んでいく。</p>	<p>○テスト返却後の補充学習に丁寧に取り組ませるなど、学習内容の定着に重点をおいた取組を推進する。</p> <p>○モニターを活用し、基礎基本の定着を図る。</p>	<p>・担任、兵庫型学習システム推進教員、児童支援教員が児童の課題を共有して指導する。</p> <p>・ひょうごがんばり学習タイムで、児童の習熟に応じた効果的・自主的な補充学習を行う。</p> <p>・漢字・計算等の基礎基本のさらなる定着をめざし、家庭学習とつなげた指導を行う。</p>		
		定期テスト、単元テストなどによる状況(各教科)	<p>○単元ごとや学期末のテストにおいては、概ね満足できる状況であった。</p> <p>◆学習者における計算や漢字等の基礎学力の定着に今後取り組んでいく。</p>	<p>○テスト返却後の補充学習に丁寧に取り組ませるなど、学習内容の定着に重点をおいた取組を推進する。</p> <p>○モニターを活用し、基礎基本の定着を図る。</p>	<p>・担任、兵庫型学習システム推進教員、児童支援教員が児童の課題を共有して指導する。</p> <p>・ひょうごがんばり学習タイムで、児童の習熟に応じた効果的・自主的な補充学習を行う。</p> <p>・漢字・計算等の基礎基本のさらなる定着をめざし、家庭学習とつなげた指導を行う。</p>			
授業等からうかがえる状況(各教科)	<p>○板書やノートに学習のあてとふりがえりを書く授業が定着してきた。</p> <p>○授業の中で、ペアワークやグループワーク等、発言する機会を多く設定したことで、多くの児童が自分の考えや意見を表現できるようになった。</p>	<p>○板書やノートに学習のあてとふりがえりを書く授業が定着してきた。</p> <p>○授業の中で、ペアワークやグループワーク等、発言する機会を多く設定したことで、多くの児童が自分の考えや意見を表現できるようになった。</p>	<p>○時間の学習内容をノートにまとめることで、理解を深める。</p> <p>○友だちの考えと自分の考えを比較し、表現する。</p>	<p>・自分の意見を積極的に表現できる授業を行う。</p> <p>・板書やノートに学習のあてと振り返りを書く取り組みを通して、学習内容の定着をはかる。</p>				
学力向上指標等の学習習慣等の状況	全国学力・学習状況調査の質問の状況	<p>○生活習慣についてはおおむね良好と判断できる。</p> <p>○学校に対する安心感が高く、互いを認め人権教育を核とした教育課程の推進の成果が見られる。</p> <p>◆学習については社会に出た時、学校での学びが有用と感じているが、好きではないという回答が見られる。</p> <p>◆自分で計画を立てて勉強をしたり、授業で学んだことを他の学習で生かしたりすることに消極的な回答が見られる。</p>	<p>○生活習慣についてはおおむね良好と判断できる。</p> <p>○学校に対する安心感が高く、互いを認め人権教育を核とした教育課程の推進の成果が見られる。</p> <p>◆学習については社会に出た時、学校での学びが有用と感じているが、好きではないという回答が見られる。</p> <p>◆自分で計画を立てて勉強をしたり、授業で学んだことを他の学習で生かしたりすることに消極的な回答が見られる。</p>	<p>○家庭学習の具体的な手立てを提案し、前年度より数値が向上する。</p> <p>○生活リズムを整え、計画的な学習習慣を定着させる。</p>	<p>・学年通信等を通して、家庭学習の啓発を図る。</p> <p>・保健指導・健康通信・学校たりHP・学級指導等を通して、生活習慣や健康に関する情報を発信し、各家庭の理解と協力を求めている。</p>			
	学校評価などのアンケート調査による児童・生徒の状況	<p>○生活習慣についてはおおむね良好と判断できる。</p> <p>○学校に対する安心感が高く、互いを認め人権教育を核とした教育課程の推進の成果が見られる。</p> <p>◆学習については社会に出た時、学校での学びが有用と感じているが、好きではないという回答が見られる。</p> <p>◆自分で計画を立てて勉強をしたり、授業で学んだことを他の学習で生かしたりすることに消極的な回答が見られる。</p>	<p>○生活習慣についてはおおむね良好と判断できる。</p> <p>○学校に対する安心感が高く、互いを認め人権教育を核とした教育課程の推進の成果が見られる。</p> <p>◆学習については社会に出た時、学校での学びが有用と感じているが、好きではないという回答が見られる。</p> <p>◆自分で計画を立てて勉強をしたり、授業で学んだことを他の学習で生かしたりすることに消極的な回答が見られる。</p>	<p>○家庭学習の具体的な手立てを提案し、前年度より数値が向上する。</p> <p>○生活リズムを整え、計画的な学習習慣を定着させる。</p>	<p>・学年通信等を通して、家庭学習の啓発を図る。</p> <p>・保健指導・健康通信・学校たりHP・学級指導等を通して、生活習慣や健康に関する情報を発信し、各家庭の理解と協力を求めている。</p>			
授業改善	主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善	<p>○授業におけるタブレット端末の活用する学年も増え、「原因と結果など情報と情報との関係について理解する」の設問では、全国平均を8ポイント上回り、情報整理の力が高まった</p> <p>◆タブレットを活用した児童相互の情報共有及び協働作業を取り入れ、対話を通して思考を深める授業改善の推進に課題がある。</p>	<p>○子どもたちの主体を引き出すため「自らの学びを振り返り、次に生かす力を育む授業」「友だちとの対話を通し学びを深める授業」などの授業改善を図る。</p> <p>○「学習課題」が「あてを明確にし、自分たちで学習を組み立てていく力を育てていくことができる授業」をすすめる。</p> <p>・自ら考え、学ぶ楽しさを感じ、意欲を高めていくことで、基礎学力の定着を図る。</p> <p>・児童どうしの協働、教職員や地域のひととの対話、先習の考え方を手取りに考えること等を通して、自己の考えを広げ深める</p>	<p>○資質能力で「学校で」学級の発着と変化を交換する場面や、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか、「学校」で、自分の考えをまとめる、発表する場面、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使っていますか」で回答する割合が昨年度を上回る。</p>	<p>・「課題解決に前向き、自分の考えをまとめる(二次学習)」時間を授業に位置付ける。</p> <p>・グラフ等のデータの特徴を捉える活動にタブレット端末を活用し、情報の特徴を捉える学習の充実を図る。</p> <p>・モニターを活用し、児童生徒の学習の定着状況等にに応じた個別最適化された学習の充実を図る。</p>			
	ICT機器を効果的に活用(クラウド環境を活かした授業実施等)	<p>○授業におけるタブレット端末の活用する学年も増え、「原因と結果など情報と情報との関係について理解する」の設問では、全国平均を8ポイント上回り、情報整理の力が高まった</p> <p>◆タブレットを活用した児童相互の情報共有及び協働作業を取り入れ、対話を通して思考を深める授業改善の推進に課題がある。</p>	<p>○子どもたちの主体を引き出すため「自らの学びを振り返り、次に生かす力を育む授業」「友だちとの対話を通し学びを深める授業」などの授業改善を図る。</p> <p>○「学習課題」が「あてを明確にし、自分たちで学習を組み立てていく力を育てていくことができる授業」をすすめる。</p> <p>・自ら考え、学ぶ楽しさを感じ、意欲を高めていくことで、基礎学力の定着を図る。</p> <p>・児童どうしの協働、教職員や地域のひととの対話、先習の考え方を手取りに考えること等を通して、自己の考えを広げ深める</p>	<p>○資質能力で「学校で」学級の発着と変化を交換する場面や、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか、「学校」で、自分の考えをまとめる、発表する場面、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使っていますか」で回答する割合が昨年度を上回る。</p>	<p>・「課題解決に前向き、自分の考えをまとめる(二次学習)」時間を授業に位置付ける。</p> <p>・グラフ等のデータの特徴を捉える活動にタブレット端末を活用し、情報の特徴を捉える学習の充実を図る。</p> <p>・モニターを活用し、児童生徒の学習の定着状況等にに応じた個別最適化された学習の充実を図る。</p>			
校内研究・研修	校内研究の状況	<p>○今年度、コミュニティスクール先行指定校として研究会を開催し、2年間の研究を通して高平を学びの場とする単元構想を書籍することができた。</p> <p>◆高平小学校のコミュニティスクールについて、教職員並びに地域・家庭に浸透させていくことに課題が残った。</p>	<p>○今年度、コミュニティスクール先行指定校として研究会を開催し、2年間の研究を通して高平を学びの場とする単元構想を書籍することができた。</p> <p>◆高平小学校のコミュニティスクールについて、教職員並びに地域・家庭に浸透させていくことに課題が残った。</p>	<p>○教員一人ひとりが研究テーマを理解し、日々の授業実践を積み重ねていく。</p> <p>○学校地域運営協議会と課題を共有し、地域と連携したカリキュラムで単元マップを構築していく。</p> <p>○地域の学習拠点(寺子屋)と連携した取組を実施する。</p>	<p>・研究授業を行い、地域と連携したカリキュラムマップを確立させる。</p> <p>・他学年の授業を見学し、授業改善の視点を共有する。</p> <p>・児童の実態を調査し、より本児の課題にあった研修を実施する。</p>			
	校内研修の状況	<p>○人権研修会「GIGAスクールに係るICT研修会」「心にも係る生徒指導研修会」「特別支援教育研修会」等、児童の実態に即した校内研修を実施できた。</p>	<p>○人権研修会「GIGAスクールに係るICT研修会」「心にも係る生徒指導研修会」「特別支援教育研修会」等、児童の実態に即した校内研修を実施できた。</p>	<p>○教員一人ひとりが研究テーマを理解し、日々の授業実践を積み重ねていく。</p> <p>○学校地域運営協議会と課題を共有し、地域と連携したカリキュラムで単元マップを構築していく。</p> <p>○地域の学習拠点(寺子屋)と連携した取組を実施する。</p>	<p>・研究授業を行い、地域と連携したカリキュラムマップを確立させる。</p> <p>・他学年の授業を見学し、授業改善の視点を共有する。</p> <p>・児童の実態を調査し、より本児の課題にあった研修を実施する。</p>			
家庭・地域等の状況	家庭・地域等の状況	<p>○平素からPTAとの情報交換を行い、年間を通してさまざまな活動において、協働体制を築くことができた。</p> <p>○地域コーディネーターを窓口にして、学校教育活動に対する地域ボランティアとの連携を進めることができた。</p>	<p>○平素からPTAとの情報交換を行い、年間を通してさまざまな活動において、協働体制を築くことができた。</p> <p>○地域コーディネーターを窓口にして、学校教育活動に対する地域ボランティアとの連携を進めることができた。</p>	<p>○通信やHPを活用した積極的な情報発信を行う。</p> <p>○地域と連携した、児童を見守る環境整備を進める。</p>	<p>・通信を通して学級の様子、学習の準備物や行事の案内を積極的にやっている。</p> <p>・HPでは写真を活用し学校生活をわかりやすく伝えていく。</p> <p>・地域コーディネーターを窓口にして、連携を密にし、活動に対する考えを共有していく。</p>			
	小・中における教科連携等の状況	<p>○小・中合同研修会を開催し、中学校区における小・中学校で連携を進めることができた。</p> <p>○中学校の学校たより配布や出前授業を通して中学校の学校生活等の紹介や解説を行うことで、6年生の不安解消につながった。</p>	<p>○小・中合同研修会を開催し、中学校区における小・中学校で連携を進めることができた。</p> <p>○中学校の学校たより配布や出前授業を通して中学校の学校生活等の紹介や解説を行うことで、6年生の不安解消につながった。</p>	<p>○これまで実施してきた児童理解を深める各連絡協議会などにより、中学校進学に戸惑いのない「中連携」の充実を図る。</p>	<p>・児童から事前に各学校への不安や質問などを募り、それぞれもって中学校と連携を図っていく。</p> <p>・中学校の連携によってできた学習の手引きを活用するとともに、各学年の家庭学習の時間を示し、復習から自主的な学習へつなげる家庭での学習習慣の確立をめざす。</p>			